

いきいき直売の会 野菜部会
 <アスパラガス栽培こよみ> R2年5月改正

令和2年5月 JA氷見市営農販売課

時期		作業	防除体系					
月	旬		対象病害虫	農薬名と使用倍率 (収穫前日数と草使用回数)	水10L当り 薬剤料	1a当り 散布量	農薬 使用日	
3	上	野そ駆除 バーナー処理 春肥 うねの立て直し	野そ	ヤソジオン				
	中							
4	中	春芽収穫		ダントツ水溶剤 2000倍 (前日まで3回以内)	5g	10~30L		
5	上		収穫打ち切り 追肥(立茎肥え) 除草剤散布 立茎開始 防除①※ 防除②※ 追肥 防除③※ 防除④※		センコル水和剤 (収穫打ち切り後1回)		10~15g	/
	中			ベンレート水和剤 2000倍 (前日まで4回以内)	5g		/	
				茎枯病	ダコニール1000 1000倍 (前日まで3回以内)	10ml	10~30L	/
				茎枯病	アミスター20フロアブル 2000倍 (前日まで4回以内)	5ml	10~30L	/
下		茎枯病	ベンレート水和剤 2000倍 (前日まで4回以内)	5g	10~30L	/		
通路に敷きわらを行う(土の跳ね上がり防止による茎枯病の予防)								
6	上	夏肥 夏秋芽収穫開始 防除⑤	アザミウマ類	ダントツ水溶剤 2000倍 (前日まで3回以内)	混用 散布	5g	10~30L	/
	中	最重点 防除期間	茎枯病	コサイド3000 2000倍 (使用回数制限なし)		5g	10~40L	/
			茎枯病	Zボルドー 500倍 (使用回数制限なし)		20g	10~30L	/
			防除⑥					
下	中耕・培土 除草剤散布 防除⑦	茎枯病	アミスター20フロアブル 2000倍 (前日まで4回以内)	5ml	10~30L	/		
7	上	追肥 防除⑧	オオタバコガ等	アフーム乳剤 2000倍 (前日まで2回以内)	混用 散布	5ml	10~30L	/
	中	夏秋芽 収穫	茎枯病	ダコニール1000 1000倍 (前日まで3回以内)		10ml	10~40L	/
			防除⑨					
下		防除⑩	茎枯病	コサイド3000 2000倍 (使用回数制限なし)	5g	10~30L	/	
8	上	追肥 防除⑩	アザミウマ類	モスピラン水溶剤 4000倍 (前日まで2回以内)	混用 散布	2.5g	10~30L	/
	中	液肥 散布※	茎枯病	ベンレート水和剤 2000倍 (前日まで4回以内)		5g	10~30L	/
			防除⑪	茎枯病		アミスター20フロアブル 2000倍 (前日まで4回以内)	5ml	10~30L
下								
9	上	防除⑫	オオタバコガ等	アフーム乳剤 2000倍 (前日まで2回以内)	混用 散布	5ml	10~30L	/
	中	防除⑫	茎枯病	ダコニール1000 1000倍 (前日まで3回以内)		10ml	10~40L	/
		防除⑬	茎枯病	Zボルドー 500倍 (使用回数制限なし)		20g	10~30L	/
下								
10	上	防除⑭	茎枯病	ベンレート水和剤 2000倍 (前日まで4回以内)	5g	10~30L	/	
11	上	茎葉刈取り バーナー処理 野そ駆除						
	中			ヤソジオン				

※立茎開始前からの4回防除を徹底する。
 防除①・立茎開始3日前 防除②・立茎開始当日 防除③・防除②後の3日以内 防除④・防除③後の5日以内

※夏芽収穫時は、高温による活力低下防止と同化養分の地下根への転流を促すため、薬剤防除の際に以下の液肥を指定の倍率で混用散布する。

8月上旬まで メリット青・・・500倍、根っこりん・・・250倍、カルタス・・・500倍
 8月中旬以降 根っこりん・・・250倍、カルタス・・・500倍



I 作物特性

○苗を植付けした後、7～8年継続して収穫が期待できるので、耕土が深く、排水の良い畑を選定する。酸性土壌を嫌う。

○水を好む作物である。収量、品質を高めるためには、灌水・追肥と茎葉管理がポイントである。

II 作型と品種

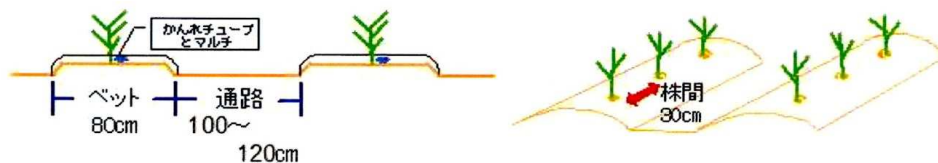
	●播種 ▲定植 ■収穫												品種	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
露地立 茎栽培														メリーワシントン 500W ウエルカム グリーンタワー ガインリム
(1年目)	●			▲										
(2年目)				■	■	■	■	■	■	■	■	■		

III 作り方

1. 定植準備

- ・排水保水性のよいほ場を選ぶ。
- ・耕起前に完熟堆肥を10アールあたり10トン以上散布する。
- ・深耕ローターなどを利用し少なくとも30cm以上耕す。
- ・基肥施用後再耕起し、床幅80cm、通路100cm、床の高さ20～25cmのうね立てをする。
- ・ハウス栽培や露地栽培でも砂丘地の場合は、うねごとにかん水チューブを配置する。かん水で葉に水がかかからないように、高く飛ぶタイプのかん水チューブは使用しない。水平散水(根元散水)か点滴方式を選ぶ。
- ・定植年は、除草の省力化や乾燥防止のため黒ポリでマルチする(マルチをかける時は、土壌温度が高く水分がややある状態で行う)。
- ・排水溝をきちんと作り、うね溝としっかりつないでおく。

露地栽培でのほ場設置例



※ 通路は機械防除などを考慮し、さらに広くしてもよい。

2. 定植

- ・播種後約90日、茎数3～4本、根数7～8本に生育した苗を植え付ける。
- ・植付け時期は4月上旬～5月中旬である。
- ・定植の際は、株間30～35cm、1条植え、1,500～1,800本/10aとする。
- ・根を乾かさないようにし、2～3cmの深さに植える。
- ・活着まで、植え痛みないように、こまめに灌水する。
- ・2年目以降は、2～3本の茎立を始めたなら完熟堆肥を畝表面に散布して、乾燥防止、地力向上を促す。

3. 施肥

- ・基肥量は、緩効性肥料を主体に、10aあたり成分でチツソ15kg、リン酸35kg、カリ15kg程度とする。
- ・施肥方法は、堆肥、有機質肥料、化成肥料の50%を培土機で幅40cm、深さ30cmの溝をつくった植溝に施す。残り50%の肥料と堆肥、苦土石灰は全面散布とする。

■定植時の施肥例

(kg/1アール(150株当り))

肥料名	総量	基肥		追肥			成分量		
		全層	植え溝	6月上旬	7月中旬	9月上旬	N	P	K
牛糞堆肥(※)	1t	0.6t	0.4t						
苦土石灰	18	12	6						
BMようりん	6	3	3					1.2	
フラワー有機ペレット	8	8					0.48	0.48	0.48
果さい一発	6	6					0.84	0.84	0.84
やさい燐加安S540(※)	6			0.15	0.15	0.15	0.02	0.02	0.02
合計							1.34	2.54	1.34

※採りつきり栽培の場合は、牛糞堆肥を1アール当り400kgとし、植え溝施肥は行わず全層施肥のみとする。

※定植年はポリマルチしていることからS540を液肥100倍液にして1株当たり100ml施用する。

※100倍液のつくり方(1アール分)・・・S540 150gを15L水に溶かす。

* 追肥は月1回施肥

■2年目以降の施肥例

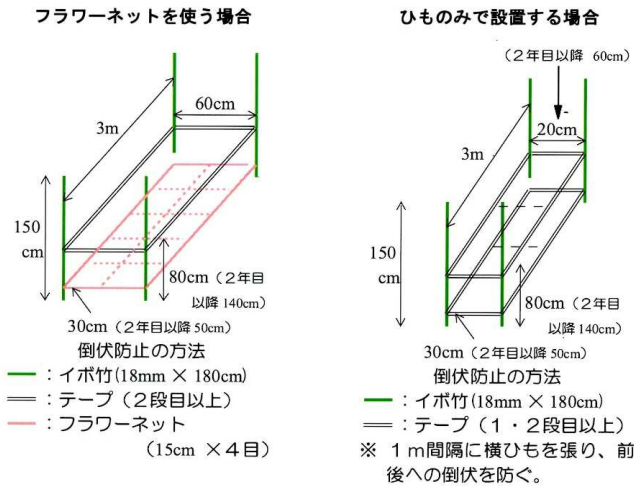
(kg/1アール(150株当り))

肥料名	総量	春肥		夏肥			成分量		
		融雪後	収穫盛期	立茎前	1ヶ月後	2ヶ月後	3ヶ月後	N	P
牛糞堆肥(※)	300								
苦土石灰	10	10							
BMようりん	6	6						1.2	
フラワー有機ペレット	20	8	6	6			1.2	1.2	1.2
果さい一発	9	4.5	4.5				1.2	1.2	1.2
NKグリーン30	7			2.5	1.5	1.5	1.5	1.1	1
合計							3.5	3.6	3.4

※春肥施用後、うね面を牛糞堆肥で覆う(堆肥マルチ)。

4. 1年目栽培のポイント

- ・株づくりに重点を置き、健全な茎葉を多く確保する。
- ・倒伏は養分の生成や転流が妨げられ、翌年の収量に影響が出てしまうため、イボ竹とフラワーネットやひも(ハウスバンド)を使った枠を設置する。1段目のネットの高さは15cmとし、最終的に50~60cmとする。下記参照。
- ・細い茎は早めに間引きをする。直径5~7mm程度のを1株あたり15本程度に仕立てる。

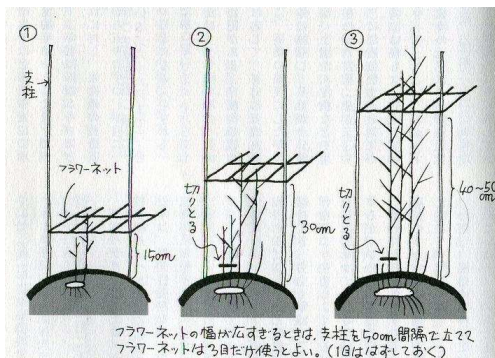


※安価で導入しやすいアスパラネットが便利です。

※1m間隔に横ひもを張り、前後への倒伏を防ぐ。

※うねの両端の支柱は、強い張力がかかるのでイボ竹よりも直管パイプや木の杭等、頑丈な資材が望ましい。

フラワーネットの張り方



定植年のフラワーネットによる倒伏防止と茎葉処理

定植したら1段目のフラワーネットは15cm程度の高さに張る。茎数が増えてきたらネットを30cm程度まで引き上げる。このとき、ネットのマス目からはずれた短い茎は地際からきれいに切り取る。そうすることで新しい若芽も萌芽してくる。若茎が伸張したらさらにネットを40~50cm程度まで引き上げて、ネットからはずれた茎を切り取る。この作業は8月下旬まで何度かに分けて行う。仕上げの茎数は、12~15本前後までにする。

- ・6月上旬、7・8月中旬、9月上旬の3回追肥する。1回の施肥量は、10aあたり成分でチッソ、リン酸、カリとともに3kg程度とする。肥料を遅くまで効かせない。
- ・かん水は、生育中ベットの表面が乾かないように灌水する(土を手にとって握り、指で押してほぐれる程度を維持する)。1回のかん水量は1㎡につき10L程度。
- ・特に夏場は土壌が乾燥しやすいので、3~5日置きに水分を与えて地下茎(貯蔵・吸収根)の活性を図る。

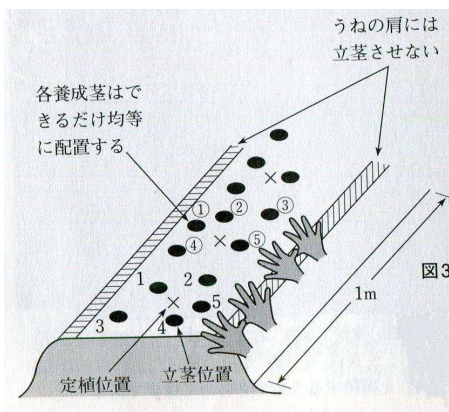
5 植付け2年目以降の管理

- ・春芽収穫中は週に1回、夏秋収穫中は3～5日置きにかん水する。
夏秋収穫後は、10日置きに灌水する。10～11月の乾燥は、翌春の萌芽が劣るので適宜かん水する。1回のかん水量は1㎡につき10～15L程度。
 - ・春肥は萌芽の15日前とし、立茎前の追肥は春芽の収穫終了後(4月下旬～5月上旬)とする。
また、夏肥は6月上旬、7月上旬、8月上旬とし、**止肥は9月上旬**に施用する。
 - ・春肥施用後は、うね面を堆肥で覆い、通路に敷きワラをする(乾燥防止と茎枯病対策)。
 - ・立茎は春芽収穫後、畝の長さ1mあたり、10本程度(株あたり3～5本)の若茎を成茎として残す。
立茎後、草丈1.1m～1.2mになったら晴天日に丁部を摘芯し、下位側枝も高さ60cmまでのものを除く。
 - ・立茎後、支柱を立てネットを張って、茎の倒伏を防ぐ。
 - ・茎葉の刈り取りは秋期に茎葉が黄化したら、地際から刈り取って焼却する。
 - ・茎葉の刈り取り後は、バーナーでうね面、通路面を焼く(茎枯病対策)。
- ※直売の会でガスバーナーを1台所有しており、共同利用して頂けます。ご利用される方は所属JA支所にお問合せ下さい。ご利用後にガス代を請求させていただきます。

■立茎サイズと本数の目安

立茎本数	1株あたり3～5本
立茎太さ	1.0～1.2cm程Lクラス太茎
離す間隔	5～10cm

- 1)なるべく離れている茎を選ぶ
- 2)基準に合わない茎は収穫する。
- 3)1りん芽群に2本以上立てない。
- 4)春芽収穫終了から立茎完了まで40～50日程度かかる。



■アスパラガス養生茎の立茎位置

親指を重ねあわせて両手を広げ(幅約30cm)、その範囲に3～5本をめやすに立茎するとよい(手のひら立茎)。

また、親茎は5～10cm(大人の指の長さ程度)おきに配置する(指立茎)

立茎は生育良好なL級の細めの若茎を選んで均等に配置する。

IV 病害虫防除 ◎注意:防除は定植1年目から徹底して行うこと。

1. 茎枯病、斑点病、褐斑病 対策

- ・萌芽前・茎葉刈取り後の年3回灯油バーナーで圃場を全面焼却する。
- ・枯死した株および茎葉はほ場外へ搬出し焼却する。
- ・気温上昇と多湿で病害の発生も多くなるので、梅雨時期にあたる
◎立茎後60日の予防防除を徹底する(栽培こよみ参照)。

特に、茎の長さが10cm未満の茎の組織が柔らかい期間に病原菌に入られやすいので、収穫打切り後の3回防除を徹底する。

1回目・・・収穫打切り後3日以内 2回目・・・1回目の5日前後 3回目・・・2回目の5日前後

- ・雨が多い場合は散布間隔をつめて防除する。
- ・野良生え・ひこ生えを除去する。
- ・夏秋芽はできる限り収穫し続け、茎葉が過繁茂にならないようにする。

2. 害虫対策

- ・アザミウマ類・・・6月下旬頃～7月上旬までの高温少雨の干ばつ状態が続くと多発する。5月下旬頃から叩き落とし調査で発生量を確認しながら、発生密度が高くなる前に薬剤防除を徹底する。

3. 害獣対策

- ・ネズミ・・・融雪後(3月上旬)、茎葉刈取り後(11月中旬)にヤソジオンを野その住み穴に10aあたり200～300g施用する。
- ・モグラ・・・動力噴霧機の排気ガスをモグラの穴に吹き込ませたり、モグラ忌避剤(商品名:モグレス)を圃場周辺に埋め込むことで忌避効果がある。

4. 雑草対策

- ・2年目以降は、収穫打切り後にセンコル水和剤(当年の栽培期間中1回のみ)を10aあたり100～150gを100L/10aに希釈し全面土壌散布する(多量散布で薬害が発生する可能性があるため散布量基準を守ること)。
- ・うね間に雑草が目立つ場合は、バスタ液剤(収穫前日まで2回以内)を10aあたり、300～500mlを100～150L/10aに希釈し雑草茎葉に散布する(アスパラガスにかからないように注意する)。

5. 強風対策

- ・春先(3月下旬～4月上旬)と秋口(9月下旬～10月上旬)の強風により、茎が曲がるなどの被害を受けやすいので圃場の周りに防風ネットを張っておく。

V 収穫と販売の工夫

- ・1年目(定植年)は収穫せず、株の充実をはかる。
- ・定植2年目から収穫する。2年目の春芽の収穫期間は10～15日。(萌芽から収穫まで10日程度)。
- ・定植3年目以降の春芽の収穫期間は30日間を目安とする。
- ・上記の収穫日数に達していなくても、以下の症状が見られたら春芽収穫を終了する。

穂先	開く・曲がり
茎	扁平・曲がり・細い
萌芽	遅い・少ない (L以上比率:3割以下、1日の収穫量:最高時の3割以下)
節	荒い

- ・夏秋芽は5月～9月下旬まで収穫する。(萌芽から3日程度で収穫。)
- ・春芽の収穫は1日1回朝どり、夏秋芽は1日2回どりとする。

■出荷規格

- ・萌芽芽が30cm程度の長さになったら地際から切り取り収穫する。
- ・傷、曲がり等の障害茎を除いて、26cmに切り揃えて規格別に選別する。105gで結束し、袋詰め出荷する。

茎の長さ: 26cm 輪ゴム(束ねらテープ)の位置: 切り口から1cm

1束の重量: 正味100g 余目5g 計105g

等級	1束の本数	長さ	選別基準
L	3～6本	26cm	品質・形状・色沢とも良好であって、病害虫その他の損傷が無く頭部の開いていないもの。できるだけ太さを揃える。
M	7～10本	26cm	
S	11～14本	26cm	